

(算数)

「主体的に学習に取り組み、楽しく学び合う子どもを育てる」

—算数科の指導を通して—

大阪市立清江小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「豊かな心で元気な子、なかまを大切にする子を育てる」とし、目指す子ども像を「すすんで学ぶ子」「すすんで友だちとかかわる子」「すすんで体をきたえる子」として、日々の教育活動を行っている。

子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。そこで、『主体的に学習活動に取り組み、楽しく学び合う子どもを育てる』を研究の主題に置き、算数科の指導を通して研究実践を進めることにした。

2. 研究の趣旨

本校では、令和4年度から研究教科を算数科として研究実践に取り組んできた。

子どもたちが、自らの学習課題に対して見通しをもって意欲的に解決していく学習態度を育てていくとともに、「できた」「わかった」「もっとやってみたい」という成就感や達成感、学ぶことの楽しさを味わわせたいと考え、算数科の指導を通して研究主題にせまることを目指した。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 児童の主体的な学びを支える工夫

- 子どもたちが見通しを持って課題に意欲的に取り組み、自らの学習課題を振り返って次につなげる主体的な学びができるよう学習過程の確立と板書計画・ノート指導の充実を図る。
- 1時間の授業の流れや学習のポイントがよくわかり、見やすい板書にする。
- 板書の量や黒板の上の位置・配分を考え、1時間の内容を見返せるような板書にする。
- 前時までの学習を振り返り、子ども自身が考える時の手がかりとしてノートを活用する。板書に対応して問題や課題、見通しや自分の考えた道筋などをできれば見開き2ページで書くことの指導を行う。また、数字や記号を正しく書くことや筆算では物差しを使うことなど基本的な学習態度を身につけさせ、学習への意欲につながるノート作りを進める。

視点② 個に応じた支援の工夫

- 個別指導が必要な子どもに対しては、机間指導での個別指導をしたり、子どものアイデアやひらめきを的確にとらえて学級全体の場で取り上げたりするなどの工夫をしていく。
- しっかり学習課題に取り組み、自分の見通しにそって解決できるよう、個に応じたヒントカード

を作成したり、具体物を用意したりするなどして解決の手がかりを準備しておく。

視点③ 基礎学力の定着を図る工夫

- 陰山式百マス計算プリントや navima 学習などを活用し、計算力等の基礎学力の定着を図る。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- どの学年でも「出あう」「気づく」「考える」「振りかえる」「活かす」の5段階の学習過程で授業を組み立てることで、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようになった。
- 1時間の学習内容がわかりやすい板書や自分の考えを振り返ることができるノート作りを進めた結果、学習内容が視覚的に整理され、児童は学習の理解を定着させやすくなった。ノートに前時までの学習内容や自分の考えた道筋が記録されているので、児童が考える時の手がかりとしてノートを活用することができた。
- ペアやグループでの話し合いにより、1人で考えることが難しかったり、自信がもちにくかったりする児童も友達の考えを参考にして考えることができた。また、児童間での意見交流が活発になり、自分と同じ考えの友達の意見があることで自分の考えに自信をもったり、自分とは違う考えから別の解き方に気づいたりすることができた。
- 自力解決が難しい児童や2つ目以降の考え方を考えるのが難しい児童のためにヒントカードを準備したことで、児童が自分の力で問題を解決する手がかりとなり、児童の自力解決の意欲を高めることができた。
- 前学年までで既に学習している内容や単元を通じて学習した内容を壁面掲示することで、児童が自力解決の糸口を見つけやすくなったり、グループでの児童間の話し合いや指導者が個別に支援する際の説明に使ったりして役立てることができた。
- 百マス計算やドリル・プリント、navima などのデジタルコンテンツで繰り返し練習することで、計算力等の基礎学力の定着を図ることができた。

(2) 今後の課題

- 四則計算では既習事項の計算でつまずきが見られる児童がいるので、引き続き百マス計算での四則計算の習熟を図っていく。また、ドリルやプリント、navima などのデジタルコンテンツでの基礎・基本的な練習問題を反復することによって、算数科における基礎的・基本的な学力の定着が今後も必要である。
- 問題文の読み取りからの立式では、既習の基礎用語の知識・理解や、問題文の情報の分類整理や分類整理のための図表グラフ化といった読み取り技能、分類整理した中から必要なものを適切に選択して立式する力、立式理由を説明する力を、場面をとらえて今後も継続して指導していく必要がある。
- 算数での学びを他教科や学校生活場面でも活用していくことで、日常生活に算数を役立てる力を育てていきたい。